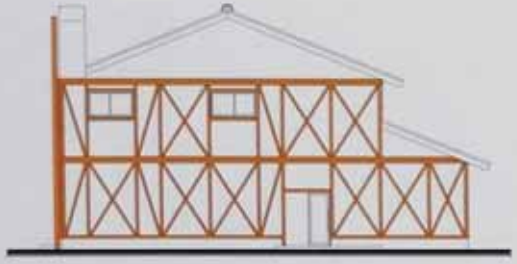
地域のくらし　「空き家を生かす」

交流の懸け橋
『 図書交換所 』

Ⅰ 鹿島地区の図書交換所

2階平面図　S＝1/100

1階平面図　S＝1/100



南立面図　S＝1/100

西立面図　S＝1/100

（Ⅱ 城下地区の図書交換所）

鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造
の側面は杉材の格子で飾る

内観パース

空き家利用の考え　③建築物について

空き家は極力そのままの状態で使用します。そうすることで地域の人達に変わらない身近な場所として利用してもらえるからです。しかし、空き家は老朽化が進んでいる箇所もあるため補強する必要があります。そのため、入口側は天竜杉材を格子状に組んで補強します。その上部には「交流の懸け橋」のテーマに合わせ鹿島橋をイメージとした木製の看板をシンボルとしておきます。そして、側面は天竜杉材をハーフティンバー風に組んで補強し、意匠的にも図書交換所だとわかるように特徴づけることを目指しました。

図書交換所内はカウンターの設置してある壁面に行事の掲示をします。また、書架は建具の高さを限度として、それ以上の壁面にも行事の掲示を行うことにします。

カウンター横には閲覧スペースを確保し管理人の方と触れ合えるようにしました。行事に興味を持った人には管理人が直接話して伝えることができます。

その他の部屋は集会室として使用し学生へ行事の知識を伝えたり練習後の休憩をとる場所とします。

本を置くスペース、図書保管室、管理人室や集会室、行事などで使用する道具用の倉庫さえあれば、どの空き家でも使えるように設定しました。

空き家利用の考え　④将来的展望

○将来的には地域ぐるみで若年者を育てる拠点とする。
○登下校時に働いていただいている交通指導員の方の待機場所や休憩場所として提供する。
○大人が気軽に若年者に話しかけることができるので学校との連携で相談室的な場所としての活用。

設計主旨

天竜地区は人口の減少と大型店舗の進出により個人商店の空き家が増えました。この寂しくなった街並みに少しでも人が行きかうような空き家利用を出来ないかと思い、このテーマに取組んでみました。

特に若い人の減少が目立つため地域の行事を盛り上げることができなくなり、行われなくなった行事があるとも聞きます。また、その影響から地域内での交流が少なくなり、非常に寂しい街並みにつながっているように感じます。

地域の活性化を目指し、安全に楽しく暮らすためには私たち若い世代が積極的に行事へ参加し交流することだと思います。しかし、地域の行事など詳しい情報は掴めていないのが現状です。その情報を得られる場所を設けることで必然的に地域の人達と触れ合い交流の切っ掛けになればよいと考え「交流の懸け橋」となる拠点をつくることにしました。

通学路と商店空き家の検証

私たち天竜高校生は鉄道を利用して西鹿島駅から学校へ自転車や徒歩で向かう者がほとんどで、その通学途中に多くの中学生とすれ違います。中学生は二俣地区・城下地区・鹿島地区のそれぞれの地区から鹿島橋を渡り中学校へ向かう生徒が大半を占めます。

すれ違う位置にある空き家を交流の場所として利用できないか考え、通学路に商店の空き家が何軒あるか調べたところ11軒もの商店空き家がありました。

空き家利用の考え　①図書交換所

多くの学生が立ち寄って利用してもらうにはどうしたらよいか考えました。

中高生とも朝読書があり多くの種類の文庫本を必要としています。そのため、貸出図書館として利用し多くの学生が通学途中に立ち寄ることを目指しました。

商店空き家は1階の売り場面積が広くとられているので本棚を置く場所が確保でき最適な建物です。

1階の売り場面積が広いこと、学生の通学路に建つことの2つの条件を満たしていれば、どの空き家でも利用可能です。

そのため、地域ごとに交流の懸け橋となる拠点を置くことができ街の活性化につながります。　今回は、二俣地区・城下地区・鹿島地区3つの地区にある商店空き家を利用しました。

中学生が住んでいる地区であり、この地区ごとに行事が行われているため、その特色に合わせて交流をすることが狙いです。

図書交換所のシステム

市の図書館のような貸し出し方では気軽に色々な本を借りて読むことが難しく管理が大変なので、利用者も少なくなります。

そこで物々交換的な貸出方法を思いつきました。

自分の家にある読み終わった本を持ち寄り、違う本と交換していくというシステムにすることで本の増減はなく色々な本を読むこともできます。

本は自分の学校の生徒や地域の人に提供していただけるように、お願いする活動をして増やす努力もします。この活動も交流の切っ掛けとなります。

本棚にはブックケースに入った本が並べられます。

ケースごとカウンターの管理人へ持って行き自分の持ってきた本を、その場所で入替えます。

空き家利用の考え　②伝統行事の継承

この地域は遠州大念仏がお盆の間に行われています。

これは、徳川家康が三方原の合戦で負けて以来行われている行事で笛や鐘に合わせて念仏を唱え太鼓ぎり、とよばれる人が舞い、亡くなった人を弔うというもので浜松市の無形民俗文化財にも登録されている行事です。

その文化的な行事に参加する人が高齢化していると聞いています。また、若い人と接触できる機会と場所を探しているが良い案が見つからないとなげいています。そこで、交換図書館の管理人を保存会の人が行えば、朝夕と利用する中高生との接触が可能となり伝統行事を継承する場所にもなると考えました。

Ⅲ 二俣地区の空き家

Ⅲ　二俣地区の図書交換所

天竜地区
商店空き家位置
学生通学路範囲

Ⅱ 城下地区の空き家

Ⅱ　城下地区の図書交換所

Ⅰ 鹿島地区の空き家

図書交換所の本棚

Ⅰ　鹿島地区の図書交換所

遠州大念仏